

2-3. 地形調査

■調査目的

橋脚の存在による流況変化に伴う、地形変化を監視する。

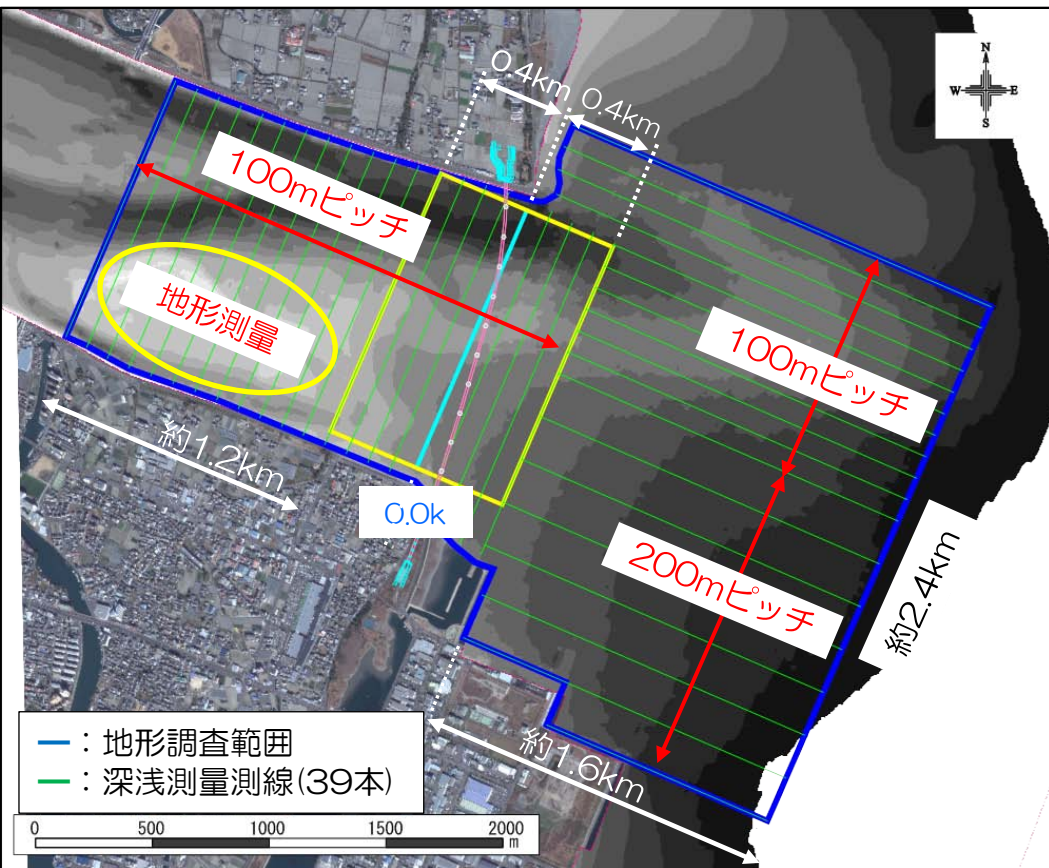
■2-3 地形調査①



橋脚の存在による流況変化によって生じる地形変化の監視として、下記に着目した調査を行う。

- ・橋脚の存在による影響で生じる地形変化
- ・自然変動で生じる地形変化

※工事浚渫に伴う地形変化は上記の調査にて把握する。



※測線の間隔は100mを基本とし、沖合の河口テラスより以南は200m間隔の測線とする。

■監視項目

項目	調査の位置づけ	調査箇所	地形調査	
			深浅測量	地形測量
橋脚の存在による影響で生じる地形変化	直接的な影響把握	吉野川距離標0.0kmの上下流400mの範囲	○	—
自然変動で生じる地形変化	自然変動の把握	上記の範囲外として、上流に約1.2km、沖合に約1.6km	○	○

■調査内容及び調査時期

調査区分	調査内容	時期・頻度
事前調査 工事中調査 事後調査	・深浅測量 (潮下帯の地形把握)	年2回※1 ・夏季：6月 ・秋季：10月
	・干潟地形測量※2 (河口干潟の形状把握)	年2回 ・夏季：6月 ・秋季：10月

※1：調査時期は、下部工施工期間(非出水期)を外した時期とし、非出水期(11月～5月)が終わった翌月の6月と、出水期(6月～10月)が終わる10月末頃に実施する。

※2：干潟地形測量は、航空レーザー測量により干潟の地盤高を計測する。

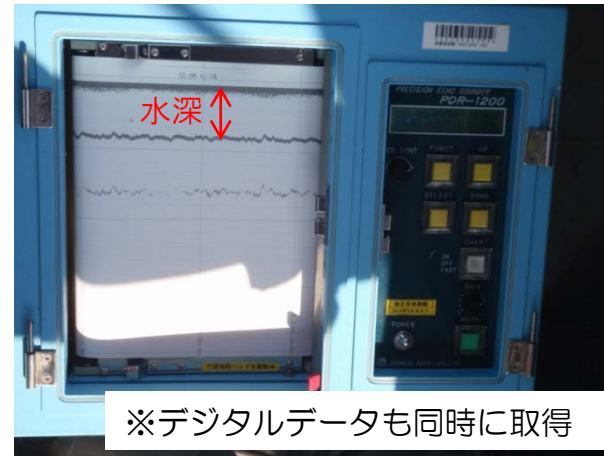


平面図に示した地形データは、海側の地形データ(H24.5、国交省)と河川側の地形データ(H24.11、徳島県)より作成。

■調査方法：深浅測量 水上において船の位置測量と水深の測量を同時に行う。



①操船し測線に沿って測量を実施



※デジタルデータも同時に取得

②計測状況

■調査方法：干潟地形測量 干潟の地形を航空レーザー測量によって把握する。

